

国語 第2学年 かん字のひろば②

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

既習の漢字を語や文の中で使い、読みと意味、字形を確かめる。字だけを繰り返し練習するのではなく、相手に伝わる文章にする。 本案では学校で見た出来事を題材にし、いつ・だれが・何をしたのかを確かめる。単元の終わりに残すのは、学校で見た出来事についての自作文、使った漢字の意味、いつ・だれが・何をしたのかを読み返して直した箇所。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)エ	エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)エ	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。

単元の目標

既習の漢字を読み、語や文の中で使える。自分の文章を読み返し、漢字の意味と語や文の続き方を確かめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①既習の漢字を読み、語や文の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①「書くこと」において、自分の文章を読み返し、漢字の意味と語や文の続き方を確かめている。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（書②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○かん字のひろば②の既習漢字を読み意味を確かめる。学校で見た出来事に使う語と漢字を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	2 （本時）	○いつ・だれが・何をしたのかに気を付けて文章を書く。読み合って字形と意味を見直す。	知①・思①（発言・学習記録）



本時の案

本時の目標：自分の文章を読み返し、漢字の意味と語や文の続き方を確かめられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「学校で見た出来事を知らせる文で、選んだ漢字をどのように使いますか」 【めあて】既習の漢字を語や文の中で使い、読みと意味、字形を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・字は知っていても使い方を確かめたい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「学校で見た出来事を知らせる文で、選んだ漢字をどのように使いますか」 教科書で示される既習漢字の読みと意味を児童の教科書で確認する。本案では教師作成の学校生活の場面でも言葉を集め、伝えたいことに必要な字を選んで文にする。教科書の挿絵は複製しない。本案の発展課題は学校で見た出来事の文章とし、いつ・だれが・何をしたのかを友達と読み返す。教科書に示された場面を使う場合も同じ観点で確かめる。 自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・字は知っていても使い方を確かめたい。 ・文にすると漢字の意味がはっきりする。 ・読み返して同じ音の別の字に気付いた。	教科書で示される既習漢字の読みと意味を児童の教科書で確認する。本案では教師作成の学校生活の場面でも言葉を集め、伝えたいことに必要な字を選んで文にする。教科書の挿絵は複製しない。本案の発展課題は学校で見た出来事の文章とし、いつ・だれが・何をしたのかを友達と読み返す。教科書に示された場面を使う場合も同じ観点で確かめる。 想定するつまずき：示された漢字を無理に全て入れて意味が通らない文を書く、使った字の数だけを数える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 自分の文章を読み返し、漢字の意味と語や文の続き方を確かめている。（発言と学習記録） ◎知① 既習の漢字を読み、語や文の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） （使った言葉・音読や表記の確認）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・読み返して同じ音の別の字に気付いた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「学校で見た出来事を知らせる文で、選んだ漢字をどのように使いますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、示された漢字を無理に全て入れて意味が通らない文を書く、使った字の数だけを数える。この場合は、教科書で示される既習漢字の読みと意味を児童の教科書で確認する。本案では教師作成の学校生活の場面でも言葉を集め、伝えたいことに必要な字を選んで文にする。教科書の挿絵は複製しない。本案の発展課題は学校で見た出来事の記事とし、いつ・だれが・何をしたのかを友達と読み返す。教科書に示された場面を使う場合も同じ観点で確かめる。おおむね満足できる状況は、自分の文章を読み返し、漢字の意味と語や文の続き方を確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

学校で見た出来事についての自作文、使った漢字の意味、いつ・だれが・何をしたのかを読み返して直した箇所。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（2年）「2年上巻」118行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）

／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

